



さかもと

さわやかに かがやいて たくひょうもって ともにあゆもう

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/sakamoto/>

感動をありがとう！

校長 神倉美智子

先月の28日の運動会には、多数のご来賓並びに保護者・地域の方々にお越しいただき、誠にありがとうございました。

その前日は朝から大雨でしたが、そこは「晴れ女」を自負する校長の本領発揮で、幸いにもお昼過ぎから陽が差し始めました。校庭の隅に水たまりは残るものの、前日準備も何とか終わらせることができてほっとしました。

当日は理想的な曇り空。暑くも寒くもなく、風もない最高のコンディションの中、スタートしました。私は開会式の挨拶で、「今までの練習の成果を発揮し、みんなの勇姿を楽しみに見に来てくださった方々に、感動を与えるような運動会にしましょう。」と話しました。そして、その期待通りに、子どもたちはカー杯の演技で、今年も数々の感動を与えてくれました。

来賓の方々も思わず笑顔になってしまう、低学年のかわいらしい演技。速い動きや難しいステップもリズムに乗ってこなして見せた中学年の演技。そして低い姿勢に力がこもった、りりしい高学年の演技。演技途中でも、「おおっ」という感動の声や拍手が起きていました。

その中でも私は心に残った二つのシーンがあります。一つは高学年の騎馬戦です。総当たり戦では白組は数的には大きく負け越していました。しかも、その後の残った騎馬同士の勝ち抜き戦でも、何と赤の女子の騎馬が次々と白の騎馬を打ち負かしていきます。上に乗っている女戦士は、騎馬よりも体が前に出る勢いで向かっていくのです。正に気迫が違います。とうとう残すは大将騎だけになりました。しかし、やはり大将騎は馬も力強く、最後は騎馬に押し出されてしまいました。

しかし、赤組にはまだまだたくさんの騎馬が残っています。ところが今度は白の大将騎が快進撃を始めました、意気消沈していた白組の応援席も、俄然息を吹き返します。しかし、勝ち抜いている限り、騎馬は待をおろして休むことができず、騎馬になっている子の負担は相当なものです。一試合終わるごとに息を整え、組んだ指をにぎり直し、そしてまた次の相手に向かっていく。そのたくましさ胸が熱くなりました。そして、こんなに頑張れる子どもたちを誇らしく思いました。

もう一つは高学年リレーです。バトンパスの際の接触で、青チームがバトンを落とすというアクシデントがあり、大きく遅れてしまいました。なかなかその差は縮まらず、アンカーに渡ったときも半周近くの差がありましたが、他のチームがゴールした後も、最後まで力を抜くことなく、全力疾走で駆け抜けました。負けが決まっても、最後まで力を出し切り一生懸命に走るその姿に私は感動しました。

これと同じことが最後の特別レースでもありました。途中で転倒があった保護者のチームも、やはり大きく遅れてしまいました。アンカーのお父さんは、最後まで力を抜くことなく、子どもたちに見本となる素晴らしい走りを見せてくださいました。

競技にアクシデントはつきものですが、最後まで力を抜かずに頑張ることの大切さ、美しさを教えてくださいました。たとえ負けても、一生懸命に頑張ったこれら子どもたちに（もちろん大人にも）私は心の一等賞を与えたいと思います。

感動をありがとう！

